

# 校区サミット通信

## 速報第2号



### 参加者の声・こえ・コエ パート2

今回ご参加いただいております方々から、じつに多くの声を寄せいただきました。その一部をご紹介します。

駒崎美津子さん(原田校区福祉委員会/豊中市)

豊中で大きなサミットが開催できて嬉しいです。全国から豊中に集まっていたいただいた皆さんに、私たちも元気とパワーをいただきたいと思っています。

森田一夫さん(西丘校区福祉委員会/豊中市)

全国規模で初めて校区サミットが豊中で開かれ、嬉しく思っています。小さな福祉活動が大きなネットワークに広がることを期待しています。今回のサミットが、今後、ほかの地域に行ったときに新たなネットワーク作りのきっかけになればと思っています。

福井啓子(静岡県菊川市)

社協で仕事をしています。地域住民による、福祉活動推進をしていくためにと、日々活動しています。市民の皆さんのパワーに触れて、あらためて基本から、と思いを新たにしました。私も一住民として活動した～い!!

小幡剛弘さん(静岡市)

全国の活動、地区関係者、社協マンが集う場ということで、皆さんの気持ちを静岡に持って帰りたいと思っています。今日のサミットで、いい出会いをしたいです。

岸裏篤さん(和歌山市)

地域密着を考えることのできる集まりということで、期待しています。土地柄、南海地震などに関心があります。大きな災害が起こったときに、寝たきりの人、しょうがいのある人を、どう支援するか、ヒントをいただきたいと思っています。

受付スタッフ

ようこそ豊中へ。初めての開催で、全国の人がどれだけ豊中に関心を持っているのか、とても興味がありました。どうぞ楽しんでいってください。

牧野洋平さん(大阪狭山市)

去年まで豊中に住んでいて、懐かしさもあり、参加しました。大阪府内も、南北に地域福祉格差があるなと感じました。

一王挺(留学生)

中国の留学生ですけど、お年寄りの方の短い恋文を見て泣きました。言葉の違いがなく通じるものを感じました。日本の校区と中国の校区のつながりを感じました。

牧里每治さん(「全国校区地域福祉活動サミット in 豊中」実行委員長)

地域で活動する、お金にもならないけれど、やることの値打ちを知っている人が集まっています。このサミットは、光の当たらない活動に、光を当てるサミットとなると思います。小さい輪が全国に広がり、同じ思いの人がつながっていく、そんなサミットになればと思っています。

渋谷篤男さん(全国社会福祉協議会地域福祉部部長)

全国各地に、いろいろな活動がありますが、その違いよりも、共通性を見出していきたいと思っています。

汐待律子さん(はやめ南人情ネットワーク代表世話人/福岡県大牟田市)

これだけ大きなサミットが行われること、とても心強く思っています。はやめ南人情ネットワークでは、高齢化が進むなかで、認知症という病気を放っておけない住民の思いをよせて形になりました。小地域福祉は人づくり、校区福祉が人をつくる原点だと思っています。利害関係なく、すべての人、すべての支え合いが福祉活動です。皆さんの熱い思いを、ぜひ地元を持って帰りたいと思っています。

大野真鯉さん(関西学院大学大学院)

思った以上に大きなイベントに参加させていただきました。住民の方、

特に主婦の方の地域での力はすごいと感じています。

平出剛さん(名古屋市)

再来年、地域密着型の介護施設を立ち上げるので、その勉強のために参加しました。施設のなかだけでなく、防災など、地域全体の課題であると思っています。そのためのノウハウや、情報をもっと知りたいと思っています。

吹井雅宣さん(大阪府地域福祉課)

地域福祉は、住民の参加と協力によって支えられているということを改めて実感しました。このサミットが2回、3回とこれからも続くことを期待しています。

山田節子さん(FM千里)

地域福祉が豊中から発信されてすばらしい。FM千里とともに、豊中からの発信を!!

今回のサミットはいかがでしたでしょうか。みなさんの活動が次の一歩につながるきっかけに、この大会がなりましたら、幸いです。

また来年もどこかでお会いしましょう!!

どうぞお気をつけてお帰りください。

編集・発行:「全国校区地域福祉活動サミット in 豊中」実行委員会

発行日:2007年10月6日(土)

事務局:全国コミュニティライフサポートセンター(CLC 大阪)内

大阪市城東区鳴野西 5-18-13 「添」内

TEL:06-6965-2022 FAX:020-4622-2459

